

主要事業評価シート(第2次実施計画/R1・2・3年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部	
	17015	都市計画道路整備事業(和賀白川線)	課名	土木課 道路整備G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上	財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	04:道路の保全・整備		款	08:土木費
	施策の方向	01:幹線道路の整備		項	02:道路橋梁費
戦略プロジェクト	03:「JR亀山駅周辺拠点力向上」プロジェクト	目		03:道路新設改良費	
事業予定期間	H 17 ~ R 7 年度 主な根拠法令要綱等 道路法、道路構造令				

② 目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	当路線は県道鈴鹿関線、国道306号、市道亀田川合線、市道亀田小川線、住山11号線で結節された市内環状線として位置づけられており、環状線は本市における産業発展と市民生活の根幹を担う重要な道路ネットワークである。国道1号から県道鈴鹿関線の区間については平成25年度までに開通しており、国道1号から北側部分と住山11号線を含めた区間を整備する。
概要	(北区間) ・幅員9.5m~12m(2車線、片側・両側歩道) 延長L=800m	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
③ 事業の計画・実績	年度計画	○用地交渉	○工事 ・亀山市斎場線	○設計 ・修正詳細設計 ○工事 ・和賀白川線 ・住山団地31号線 ・住山住宅浄化槽移転
	年度実績		○工事 ・亀山市斎場線L=140m	○設計 ・修正詳細設計 ○工事 ・和賀白川線
事業費	計画額	事業費	60,000千円	89,000千円
		国庫支出金	30,000千円	42,500千円
		県支出金		
		地方債	27,000千円	38,200千円
		その他		
	一般財源	0千円	3,000千円	8,300千円
	予算額	事業費	27,000千円	44,124千円
		国庫支出金	13,500千円	17,031千円
		県支出金		
		地方債	12,200千円	15,300千円
		その他		
	一般財源	0千円	1,300千円	11,793千円
	決算額	事業費 ①	26,430千円	44,112千円
		国庫支出金	13,069千円	17,062千円
		県支出金		
地方債		11,800千円	15,300千円	
その他				
一般財源	0千円	1,561千円	11,750千円	
人件費	総人件費 ②	0千円	7,839千円	7,903千円
	一般職員	0千円	7,839千円	7,903千円
	所要人員		1.00	1.00
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円
総コスト(①+②)		0千円	34,269千円	52,015千円
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
④ 指標	①	名称 整備進捗率	計画値 74	77	80
		実施済み事業費/総事業費	実績値	77	78
			単位 %	%	%
②	名称	計画値			
		実績値			
		単位			
③	名称	計画値			
		実績値			
		単位			

⑤ 事業の 前 回 評 価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 当該事業の財源見直しにより、交付金事業として進めていくこととなったため、JA鈴鹿葬祭会館北側から市道亀田小川線までの区間(約L=560m)において、両側歩道から片側歩道に事業計画を変更する必要がある。
	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 令和2年度補正予算で執行する工事に対応していく必要があることから、両側歩道から片側歩道に事業計画を変更する修正設計業務を早期に発注し完了させた。

		評価	(判定)
⑥ 事業の 評 価	活動	【計画どおりに実施できたか】 両側歩道から片側歩道への修正設計業務を早期に完了させ、令和2年度の補正予算により和賀白川線本線の一部区間の工事を完成させた。 令和2年度補正予算分と令和3年度当初予算分の施工範囲が重複したことから、翌年度に工事を繰り越すこととなった。	B まずまず実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 修正設計が早期に完了することができたため、設計に合致した工事を進めることができた。	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の 対 応 方 針	課題	【課題は何か】 令和2年度補正予算分と令和3年度当初予算分の施工範囲が重複したことから、翌年度に工事を繰り越したため、令和4年度内に完成させることが必須である。 今後、用地買収を進めるにあたり、地権者との用地交渉を的確に執行する必要がある。 交付金の配分率が年度ごとが変わるため、予算要求や予算執行については、慎重に検討しなければならない。	次 期 実 施 計 画 へ の 方 向 性	<input type="checkbox"/> 継続 (拡大) <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (現状維持) <input type="checkbox"/> 継続 (縮小) <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> その他
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 繰り越した予算について、令和4年度内に完成させるため早期に発注する。 地権者に対して工事概要や用地費、補償費などの内容を的確に説明し信頼を得ることが必要である。 交付金の執行にあたり、予算を有効に活用するためにも和賀白川線と同じ交付金メニューで実施できる路線を整備計画に掲げていく。		
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 部分的に供用開始が図れる。 用地買収などがスムーズに執行できることで早期に供用開始が図られ、市民の安全性の向上、交通の円滑化等の効果が期待される。 事業間流用が図られることで事業の促進が期待できる。		
対応時期		令和4年度	【その他の場合、その内容を記載】	

【1次評価者】	建設部 土木課 道路整備グループリーダー 橋本 了
【最終評価者】	建設部 土木課長 宮崎 伸二

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	/	B	/	B	B
	成果	/	B	/	B	B

■令和3年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		44,124 千円
内 訳	令和2年度からの繰越額	33,000 千円
	令和3年度の最終予算額	82,300 千円
	令和4年度への繰越額	▲71,176 千円